

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：地球っ子クラブ2000

1. 事業の概要

事業名称	多文化ハッピープログラム「人が育つ！街が育つ！」～子どもたちの将来が輝く街を～
事業の目的	外国につながる子どもたちの力を伸ばすには保護者への支援が必要である。そこで以下の3点を本事業の目的とする。 (1) 現実的な場面や状況の中で、親子が体験を通して日本語を学び、日本語で情報の受信や意見の発信ができること。 (2) 子どもの教育や子育てをする保護者が、早い段階で社会や様々な機関と繋がれること。 (3) 外国につながる親子をとりまく日本人側にも多文化共生社会の一員たる気付きがあるような、双方向の学びの場をつくること。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	さいたま市には、地域日本語教室が各所にあるが、生活者のライフステージに合った教室、子どもが学べる教室、または親子が一緒に通える教室はほとんどない。しかも、埼玉県は全国5番目に外国籍の人の多い県であり、国際結婚の増加に伴って「日本で子育て・教育をする外国出身者」が増えている。子育て、教育に関しては、彼らの母国の背景と異なる点が多く、彼らが戸惑うケース、学校や、日本人との理解不足が問題化するケースも見聞きする。日本語学習の項目として、子育て・教育について学べる場を提供すると同時に、生活者が日本で安心して生活していくための情報提供、情報交換の場、日本人住民が彼らのことを理解し互いに尊重し合える場を創造することが必要である。 また、市内の学校に派遣される日本語加配教員や日本語指導員に対する研修は十分とは言えず、その専門性に課題がある。日本語教育技術向上や、担任や管理職など教職員全体に外国につながる子どもや保護者に対する教育的配慮などを学ぶ機会が必要とされる。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	【取組1】教室活動(地球っ子クラブ2000担当)親子参加型日本語教室:体験を軸にした活動型教室を開催することで、日本語はもちろん、学校文化なども親子で学び、学校生活にスムーズに入って、彼ららしい学校生活が送れるよう、親子にとつてのプレスクールの役割を担う。 【取組2】教室活動(多文化子育ての会Coconico担当)子育て中の外国人のための日本語教室:子育てや生活に必要な話題を中心に、居場所作り、仲間作りをしている。早い段階で日本社会に出る力をつけることを大切にする。 【取組3】教室活動(てんきりん担当)外国人自ら、自分の力を発揮して地域に貢献することにより、多文化共生の街作りを目指す。本年度はさらに活躍するために、外国出身者の希望をとりいれ、日本語力のパワーアップをはかる。 【取組4】連携による体制作り:外国人が集住している地域・学校と連携し、外国出身親子を取り巻く環境を整備する(協議会、就学時健診、スクールサポートネットワークへの参加)。東宮下小学校での就学時健診サポートの実施。また、県内の日本語教室や教育・子育てに関する情報提供、相談窓口となる場を、埼玉県の地域日本語教育コーディネーターを中心に整備していく。 【取組5】人材育成:学校や地域で日本語教育に関わる人を対象に、児童生徒・保護者への配慮も含めた日本語教育の在り方と実践を学ぶ。外国につながる親子の教育環境を改善していく足掛かりとする。 【取組6】地域へ発信:外国出身の仲間たちが、教室活動で身につけた日本語と本来持っているその人らしさで、直接日本人と交流、意見交換をして、多文化共生の街作りの一端を担ってもらうような様々な発信の機会を作る。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年2月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	宇佐見 昌義	埼玉県教育局 市町村支援部 家庭地域連携課幼児教育・家庭教育支援担当
2	洪沢 豊	埼玉県 県民生活部 国際課
3	福田 智子	埼玉県国際交流協会
4	石川 信雄	さいたま観光国際協会 国際交流センター
5	中田 清人	さいたま市 教育委員会 学校教育部 指導第1課
6	門 美由紀	東洋大学 社会学部 社会福祉学科
7	高柳 なな枝	地球っ子クラブ2000
8	井上 くみ子	多文化子育ての会Coconico
9	芳賀 洋子	あそび舎てんきりん
10	李 銀美	地球っ子クラブ2000



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月24日 (水) 15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター	宇佐美、洪沢、福田、中田、門、高柳、井上、芳賀、李	1. 運営委員紹介 2. 今年度事業の取組概要説明
2	平成29年10月27日 (金) 15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター	宇佐美、藤江、福田、中田、門、高柳、井上、芳賀、李	取組内容の報告と相談
3	平成30年2月23日 (金) 15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター	宇佐美、福田、石川、高柳、井上、芳賀、李	1. 今年度の事業の報告 2. 来年度に向けて 3. アンケート

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	●運営委員会各団体との連携…さいたま市における外国出身者の教育、子育ての状況について共有し、具体的な施策に結びつける。 ●さいたま市教育委員会、さいたま市教育研究所、東宮下小学校との連携…人材育成事業(取組5)として、教職員等を対象とした研修。 ●東宮下小学校との連携…就学時検診時の保護者サポート。新入学児童保護者説明会での子育て講座担当。 また、SSN(スクールサポートネットワーク)協議会に参加。学校行事に外国人保護者が参加しやすくなる環境作り。 ●東宮下小、地区の保育園、さいたま市教育委員会、七里公民館、他…就学前の子どもを持つ外国人保護者のための日本語教室開催の協働により、外国出身の保護者が就学前に日本の学校について知り、子どもの教育に主体的に関われるようにする。 ●東宮下小、地域の保育園、公民館、さいたま市教育委員会…七里地区での外国につながる子どもの教育について話し合う協議会開催 ●NPO法人ECO・ECO…ボランティア体験、自然体験を協働して企画、実施。地域社会への参加を促す。 ●各情報発信団体との連携…埼玉県国際交流協会メールマガジン、埼玉新聞社、さいたま市子育て支援課多言語情報誌、さいたま市教育委員会、七里公民館(関係する地域の学校への広報) ●七里地区保育園・さいたま市立図書館(南浦和・武蔵浦和・大宮・北浦和)・小学校チャレンジスクール…多言語による絵本の読みきかせorおはなし会+世界の文字のワークショップの開催。親にとっては社会参加、子どもにとっては自分のアイデンティティーを確立していく下支え、また、地域の人々にとっては外国出身の人がそれぞれの国の文化と言葉を大切にしながら暮らしていることを知る機会となる。 ●さいたま市民活動サポートセンター、さいたま市七里公民館、さいたま市植竹公民館、コープみらい……活動の場所提供 ●さいたま国際交流観光課、埼玉県国際交流協会…国際フェアなど、地域のイベントに協力。自分たちの文化と存在を地域にアピール
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	今まで築いてきた他機関との連携をいかし、各方面との交渉、話し合いも積極的に進めていく。平成28年度に引き続き、さいたま市との連携をさらに広げていく。上記に記載した各取組毎にコーディネーターと指導者が連携し、企画から運営まで円滑な実施に努める。さらに、中核メンバー全員は、適宜連絡を取り合い、各取組が連動して目標となる日本語教育の体制整備、多文化共生の街作りが進むように努める。中核メンバーは運営委員に各事業について報告し助言を求めながら進める。具体的には、理念を共有し、全体として大きな一つの目標に向かうよう分担し、それぞれ主体的に協力しあいながら取組を実施していく。今まで通り、地球っ子クラブ2000が中核になる一方、多文化子育ての会Coconico、事務局てんきりんの活動についても積極的にアピールしていくことにも力を入れる。中核メンバーは、共に活動する会員、参加する外国出身の隣人達がそれぞれが持っている力を十分発揮し、取組がより豊かになるよう、常に配慮していく。会員、参加者を含めたミーティングを随時開いて、協働して取組が実施できるようにする。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		親子の日本語＆保護者を中心にした「子どもの学びを支える環境づくり」							
	取組の目標		子育て・子どもの教育・保育園や学校で使用する日本語を中心に学び、話し合うことにより、日本語で考えを発信したり、意見交換や相談ができる日本語力をつけることを目標とする。あわせて、地域・学校・家庭が連携しながら外国人親子、特に保護者を支えることで、保護者が積極的且つ主体的に、自信を持って子育て・教育していける環境を整備しその充実を図る。							
	取組の内容		(1)親子参加の日本語教室 親子でともに体験できる日本語教室の開催。ボランティア体験・お弁当(給食)づくり・デイキャンプなどを行う。 (2)就学前日本語講座 小学校に入学する前の子どもをもつ保護者が、日本の学校教育について事前に情報を得、日本語を学びながら子育て・教育について考えていく。また就学前健診から入学、入学後のさまざまな疑問・不明点について気軽に相談できる場、仲間作りを行う。 この内容を行うことが目的であるが、以前の取組から外国人保護者たちが学校について知る必要性を感じていないようであるので、平成28年度はまず親子で楽しめる会を企画し参加者を募り、そこからこのような講座へとつなげていくこととした。その結果参加者が大幅に増え、つながりを持つことができた。29年度もその後につながるきっかけになるような内容を実施したい。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		教育委員会、幼稚園・保育園・小学校、地域(公民館)と連携することにより、就学時健診から入学までのサポートなどを行う親子にとってのプレスクールの役割を担い、その体制整備へとつなげる。							
	取組による日本語能力の向上		子育て・教育について日本語で話すことで、学校で使用される日本語(懇談会や学校行事など)について理解し、また日本語だけでなく、積極的に子どもの教育に関与していけることを目指す。また日本人側にも、外国人住民にとってわかりやすい「やさしい日本語」を習得してもらう。							
	参加対象者		外国人親子(日本語を母語としない親子) 外国にルーツを持つ子どもの教育を支える関係者(保護者を含む)			参加者数 (内 外国人数)		50人 (37人)		
	広報及び募集方法		チラシ配布(幼稚園・保育園、地域の回覧板)、公民館便り、地域の小学校を通して声かけ、ホームページ活用							
	開催時間数		総時間 20時間(空白地域 時間) (1)親子参加の日本語教室(12時間) (2)就学前日本語講座(8時間)							
	主な連携・協働先		さいたま市立七里公民館、さいたま市植竹公民館、さいたま市教育委員会、さいたま市立七里保育園、さいたま市立七里東保育園、さいたま市立東宮下小学校 等							
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		19	7	0	1	5	0	0	0	
		バングラデシュ(3人)、パキスタン(1人)、インド(1人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成29年6月10日 10:00～12:00	2	七里公民館	10	親子参加の日本語教室 ①	静電気を作ろう	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子		
2	平成29年6月24日 10:00～12:00	2	七里公民館	12	親子参加の日本語教室 ②	ストローで立体工作	高柳なな枝	井上くみ子 西山珠祐		
3	平成29年9月9日 13:30～15:30	2	植竹公民館	14	親子参加の日本語教室 ③	同じ？違う？	高柳なな枝	小野寺美樹 洪 知恵 五十洲恵		
4	平成29年9月23日 10:00～12:00	2	七里公民館	12	親子参加の日本語教室 ④	タングラム	高柳なな枝	小野寺美樹 芳賀洋子 井上くみ子		
5	平成29年10月14日 10:00～12:00	2	北公民館	26	親子参加の日本語教室 ⑤	デイキャンプ;カレー作り	高柳なな枝	五十洲恵 洪 知恵 小野寺美樹		
6	平成29年12月9日 10:00～12:00	2	七里公民館	17	親子参加の日本語教室 ⑥	かるたを作ってあそぼう	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子 芳賀洋子		
7	平成29年7月8日 10:00～12:00	2	七里公民館	11	就学前日本語講座 準備	子育て・教育についての話 夏休み親子イベントの準備	高柳なな枝	小野寺美樹 五十洲恵		
8	平成29年7月22日 10:00～12:00	2	七里公民館	17	就学前日本語講座 ①	夏休みの工作 ～私だけのドアプレート作り	高柳なな枝	芳賀謙介 小野寺美樹 五十洲恵		
9	平成29年8月5日 10:00～12:00	2	七里公民館	18	就学前日本語講座 ②	とうもろこしの不思議	高柳なな枝	五十洲恵 西山珠祐 小野寺美樹		
10	平成29年8月26日 10:00～12:00	2	七里公民館	13	就学前日本語講座 ③	塩と氷で作るアイスクリーム	高柳なな枝	小野寺美樹 五十洲恵 芳賀洋子		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第6回 H29年12月9日】

かるたを作って遊ぼう

目的

- ・文字や日本語の発話力がどれくらいか把握し、必要な手立てを考える参考にする。
- ・楽しく文字や数字に触れ、次の学習につながる素地をつくる。

活動の流れ

1. 絵本『ほらそっくり』
2. 自己紹介: 名前の文字を使った言葉も書く&発表
3. グループに分かれ活動
 - A: かるたの文章を考える
 - B: 仮名に親しむ 名前、好きな物をひらがなで完成させる
4. 全体でかるた取り
5. 絵本『挨拶絵本』
日本語、中国語、ベトナム語、ベンガル語で挨拶



○取組事例②

【第9回 H29年8月5日】

とうもろこしの不思議

目的

- ・不思議を体験し、疑問を持ったり興味を持ったりし、発話につなげる。
- ・理科の実験を通し、予想・観察・まとめ・発表の流れに慣れる。
- ・予想や感想、自分の考えを言語化し、伝え合う。
- ・新しい参加者を迎え、居場所、日本語学習・相談の場、つながる場とする。

活動の流れ

1. 全体で自己紹介
2. 導入
 - ・とうもろこし、どうやって食べる？
 - ・ポップコーンを作ってみよう
3. ポップコーン作り&試食
4. じゃあ、モミ・玄米・白米はどう？
5. 実験&発表
6. 片付け
7. 絵本『甘いとうもろこし、カタイトウモロコシ』



(2) 目標の達成状況・成果

●聞き取りや参与観察から、親子の日本語教室として安定してきていることがわかる。

子どもにとっては楽しい体験から話したいことが溢れ出て、日本語の獲得はもちろん、教科学習への架け橋にもなった。保護者にとっても日本語だけでなく学校のことでわからないことがあれば質問できる場となり、日本での子育て・教育に主体的にかかわれるようになってきた。また親子で同じ体験をすることにより、ことばの獲得だけでなく親子関係の強化にもつながったようだ。

●教室に継続的に参加してもらえば成果が見られるが、今年度は新規参加者が増えなかった。活動内容や広報などに何か問題があったかと思ったが、取組4にある就学時健診に行ってみると、来年度小学校新入学生で外国にルーツのある親子が昨年に比べ、数がぐんと少なくなっていることが分かった。地域には外国人住民は多いが、年によって就学前日本語講座を必要とする人数に変動があることがわかった。

(3) 今後の改善点について

●就学前日本語講座が必要な親子が少なかったとしても、今後、夏休み親子イベント(就学前日本語講座)のチラシについては工夫する必要がある。チラシをシンプルにし、動画にアクセスできるようなQRコードを付けたりするなど文字に頼らず、内容を理解してもらえるような工夫が必要である。保育園ではおはなし会などを行い、その際に直接、保護者にチラシを渡すなど、チラシの渡し方にも工夫が必要である。

●小学生だけでなく、中学生で勉強したい子をどう支えていくか。取組4とも関係するが、今後の実施体制として、保育園・小学校のつながりから、中学校まで範囲を広げ、長期的に支えていく体制が必要だと考える。

＜取組2＞									
取組2	取組の名称		母も子ども笑顔で暮らす！！～地域へ社会へ～						
	取組の目標		子育て中の孤立をふせぎ、早い段階で地域社会とつながる。仲間、居場所を作り、出産や子育て中の不安を軽減する。病院、保育園、入学など、必要な日本語や日本の制度や手続き、日本社会での生活がスムーズにいくな関係づくりなどについて話し合い、学ぶ。地域での活躍できる場を提供する。親子で外出する機会を増やす。						
	取組の内容		(1)日本語を学ぶ場、仲間作り、居場所作り これまでの教室活動での話題から、知りたいことや考えていることは、母親として日本人と変わらないことが分かっている。(日本語だけではない)子どもの成長やママ友との付き合い方、学校のPTAなど心配していることや、保育園の手続きや病院でのことば、成績表の見方など、必要としていることを学ぶ。出産や子育てについて、外国人経験者から学ぶ。何でも話せる仲間と集まれる場所を作る。 (2)外出、交流 親子で花見やBBQ、動物園や科学館などへ出かける。共通の体験をすることにより、親子の会話や経験を増やす。父親も参加するように働きかける。親子料理教室などの地域のイベントにも参加する。地域にやさしい日本語を広める。 (3)活躍の場 図書館で多言語おはなし会を開催。母親の母語母文化に子どもが興味を持ち、誇りに思うことにより、安定した親子関係を築く。料理教室を開催し、自国の料理や文化を地域の人に紹介する機会を作る。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		さいたま市図書館、さいたま市公民館、コープみらいと連携し、地域に出ていきやすい街づくりをめざす。						
	取組による日本語能力の向上		「教える人＝日本人」ではなく、経験者である外国出身者の力を活用する。子育ての喜び、楽しさ、悩みを話し合う。必要な日本語(幼稚園や学校、習い事、子どもの健康など)、知りたい日本の事(冠婚葬祭、手土産、お礼のメールなど)を学ぶ。						
	参加対象者		子育て中の外国出身者と子ども、子育て経験のある外国出身者、国際結婚した外国出身者とその家族、地域の日本人親子				参加者数 (内 外国人数)	45人 (32人)	
	広報及び募集方法		フェイスブックの活用、子育て支援ブック、ロコミ						
	開催時間数		総時間 20時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		コープみらい、さいたま市図書館、さいたま市公民館、埼玉県国際交流協会						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		20	1		2		2		
		モンゴル(2人)、マレーシア(1人)、パラグアイ(1人)、ロシア(1人)、カンボジア(1人)、香港(1人)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年5月29日 10:30～12:30	2	コーププラザうらわ	16	活躍の場	料理教室『肉まん作り』		井上くみ子	小野寺美樹
2	平成29年7月17日 10:30～12:30	2	飛鳥山公園	9	外出、交流	親子で電車に乗って出かける。友達と仲良く遊び、交流する。		井上くみ子	賀えい 左麗
3	平成29年8月21日 10:30～12:30	2	コーププラザうらわ	8	仲間・居場所作り 学びの場	おはなし会の練習 外出の企画		井上くみ子	小野寺美樹 アントウ
4	平成29年8月25日 10:30～12:30	2	沼影プール	14	外出、交流	プールへ行って、安全に遊ぶ。 親同士が協力し、楽しく過ごす。		井上くみ子	生形晴子 左麗
5	平成29年9月18日 10:30～12:30	2	あらかわ遊園	9	外出、交流	親子で電車に乗って出かける。 友達と仲良く遊び、交流する。		井上くみ子	竹田園園 左麗
6	平成29年9月25日 10:30～12:30	2	岸町公民館	14	活躍の場	料理教室『ロシアの家庭料理』		井上くみ子	生形晴子
7	平成29年11月6日 10:30～12:30	2	コーププラザうらわ	9	仲間・居場所作り 学びの場	埼玉県国際交流協会 『フレンドシップニュース』取材		井上くみ子	小野寺美樹 賀えい
8	平成29年12月13日 10:00～12:00	2	コーププラザうらわ	3	外出、交流	コープ企画『みらいひろば』に参加 やさしい日本語で地域の人と交流		井上くみ子	賀えい アントウ
9	平成30年1月15日 10:30～12:30	2	コーププラザうらわ	4	仲間・居場所作り 学びの場	おはなし会の練習 公民館講師の打ち合わせ		井上くみ子	小野寺美樹 アントウ
10	平成30年2月20日 10:30～12:30	2	バスツアー	4	外出、交流	コープ企画『工場見学バスツアー』 に参加し、地域の人と交流する		井上くみ子	生形晴子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年5月29日】

活躍の場『料理教室』肉まんづくり

- ・料理が得意な中国出身者が、地域の日本人を含む人たちに肉まんづくりを教える。
- ・まだ日本語が十分ではなくとも、なんとか日本語を駆使して、動作も加えて伝えるようにする。
- ・日本人は、参加外国人とやさしい日本語を用いて会話をする。交流を楽しむ。
- ・いつもは日本語を教えてもらっている人が、教える立場になり、自信を持つ。



○取組事例②

【第2回 平成29年7月17日】

外出・交流『飛鳥山公園へお出かけ』

- ・親子で電車に乗って外出する。公共交通機関でのルール等を学ぶ。
- ・一緒にお弁当を食べたり、遊んだりすることにより、会話と思い出が増える。
- ・子供たちは、遊びを通じて仲良くなる。ケンカや仲直りの方法、誘い掛けや断り等の日本語を獲得する。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・仲間作り、居場所として、楽しみにしてくれている人が増えてきた。
- ・子育ての悩みや心配、愚痴の内容は日本人となら変わりなく、お互いにおしゃべりすることにより、安心し、おらかな子育てにつながった。
- ・日本人との交流により、日本人に「やさしい日本語」を理屈ではなく、体験として伝えることができた。
- ・日本語レベルにかかわらず、活躍できる場があると、自分に自信がつき、精神的に安定すると感じた。
- ・外出という楽しい体験をすることにより、親子の会話も増え、親子関係の強化につながった。
- ・おはなし会の練習や外出の企画など、任せることにより、責任感を持って考え、次々に新しいアイデアが出てきた。

(3) 今後の改善点について

- ・現在、ロコミで来る人が最も多い。そのことから、中国出身者が非常に多いという偏りがある。媒体方法を工夫する必要がある。
- ・子供の年齢に開きが出てきている。外出先や、時間をそれぞれの子どもに合うようにしていく必要がある。
- ・出産や就職等で、なかなか参加できない人がある。多様な時間を設定し、回数は少なくとも参加しやすくする工夫が必要。

＜取組3＞									
取組3	取組の名称		多文化パワーで地域に貢献「地域でさらに活躍するために、自分や家族のために、もっと力をつけたい！」						
	取組の目標		実際に地域の中で活躍すること(＝地域でボランティア)を組み込んだプログラムの中で、日本語習得、地域住民との交流の力、自国の文化とことばを掘り起こす力、等を高める。この学びを通して、日本社会の中で本来持っている力を発揮できるよう学習しあい、自尊意識を取り戻し、さらに地域社会の多様性を生み出す力にもなろうとする。						
	取組の内容		H28年度は、さいたま市の図書館、地域のデイケア施設、さいたま市のビックイベント・トリエンナーレなどでボランティア活動することができた。H29年度は、参加者から出てきた「もっと学びたい」気持ちにそって、ステップアップの学習を進める。 1)にほんご畑;地域のデイケア施設で高齢者の方といっしょに手仕事をしたり、話し相手になったりして、交流する。そのために、また、自分自身や家族の将来のために、介護の基礎知識を学ぶ。 2)多文化みんなの勉強部屋;自分自身や、家族、または外国出身の隣人などのために、出産、病気に関する基礎を学ぶ。 3)多言語絵本の会;さいたま市内の図書館、学校などで多言語おはなし会のボランティアをする。そのために、日本語の絵本やお話をたくさん読んで、自国の言葉で人の前で語れるようにする。また、自国の手遊び、子守歌なども練習し、おはなし会が更に楽しく豊かなものになるようレパートリーを増やしスキルを磨く。 4)多文化カフェ;外国出身者が中心となって会を企画し、地域の日本人とともに多文化空間を楽しむことにより、多文化共生の街作りのモデルとなる。 5)さいたま市の見沼地区の保全活動。木に絡みついた葛のつるを除去。とったつるで、リースやかごをつくり、自然に親しむと同時に地域の自然保護のお手伝いをする。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		外国出身者が日本のことばや文化を理解し活躍できるようになることはもちろん、日本人側も外国出身者との交流や協働を通して、外国出身者の前にある壁を理解し、互いにそれを超えて認め合える多文化共生の街の実現。これにより、海外出身者が学校、地域、オリンピック等のボランティア、または家庭や職業において活躍する基盤となり、さらに多様性豊かな地域をつくるよい循環を生み出す。このことが、子どもたちの教育を保障する体制を作る下支えとなると考える。						
	取組による日本語能力の向上		実際に地域の中でボランティアをする準備のための学習を通して、ステップアップした日本語が習得できる。実践を通して自己の日本語力、コミュニケーション力に自信を持つ機会となり、自尊感情と共にさらなる学びの意欲に繋がる。総体として、自分の将来や家族のため、地域活動のために役立つ日本語力が身に付く。						
	参加対象者		外国出身者・地域の日本人				参加者数 (内 外国人数)	69人 (35人)	
	広報及び募集方法		チラシ配布、ホームページ活用、口コミ、フェイスブック活用						
	開催時間数		総時間 30時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		さいたま市内小学校チャレンジスクール、さいたま市立図書館、EPO法人エコエコ、デイケア・パル、埼玉県国際交流協会、さいたま市市民活動推進課、さいたま市国際観光課						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		18	2		2	1		1	
		スリランカ(3人)、アルゼンチン(1人) パラグアイ(1人) パキスタン(2人) カンボジア(1人) マレーシア(1人) モンゴル(1人) ロシア(1人)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年5月25日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	4	にほんご畑 1)－①	スタートに当たり、日本語初級の人への対応。自分のことや国について、絵本や地図を使って話したい気持ちを引き出す。		井上くみ子	五十洲恵
2	平成29年6月8日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	4	みんなの勉強部屋 2)－①	医療の漢字(やまいだれ)から始めて、自分や家族の体験や知りたいことについてトーク。		芳賀洋子	五十洲恵
3	平成29年6月15日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	4	みんなの勉強部屋 3)－①	チャレンジスクールに向けた学習。大谷口小学校の具体的内容打ち合わせ		芳賀洋子	大石やす子
4	平成29年6月22日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	4	にほんご畑 1)－②	イメージビンゴ「雨」「学校」から発展しお互いにイメージと文化の違いを楽しむ。爽やかには中国語で「如沐春風」など		井上くみ子	大石やす子
5	平成29年6月28日 (水) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	12	絵本の勉強会 3)－②	日本の絵本、自分の国の絵本、子育てと絵本、大人のための絵本、自作の絵本などを題材に学び合い。		芳賀洋子	金子多実枝
6	平成29年7月7日 (金) 10:30～12:30	2	埼玉県国際交流協会会議室	10	にほんご畑 1)－③	自分の国を紹介するときの内容や話し方。学校・公民館など、外部からの要請で自国の文化紹介する時のために。		井上くみ子	五十洲恵
7	平成29年7月20日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	10	多文化カフェ 4)	多文化屋台風ランチ会で、地域の日本人も一緒に学び合い、話し合い。国籍とはなにか?お互いの思いこみ。		芳賀洋子	リリー・ジョン
8	平成29年8月23日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	8	図書館のおはなし会 振り返り 3)－③	南浦和図書館でのおはなし会を振り返り、課題や学びの目標などを話し合う。		井上くみ子	大石やす子
9	平成29年9月7日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	10	みんなの勉強部屋 2)－②	健康私の健康法 畑で健康、体操紹介(月のつく漢字、病院の漢字も学ぶ)		芳賀洋子	五十洲恵
10	平成29年9月21日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	7	みんなの勉強部屋 2)－③	病院事情:通訳ボランティア・子育ての応援ができないかな?		芳賀洋子	大石やす子
11	平成29年9月28日 (木) 10:30～12:30	2	事務局てんきりん	3	にほんご畑 1)－④	パルシステムの講座申込書作成		芳賀洋子	大石やす子

12	平成29年11月25日(土) 10:00~14:30	4	見沼田んぼ	14	ボランティア体験と自然体験 5)	前半:見沼田んぼに茂ったつるを除去。 後半:とったつるでリース作り NPOエコエコのメンバーとの交流	講師:加倉井範子 指導者:芳賀洋子	洪智恵 大奈路アリア
13	平成29年12月22日(金) 10:30~12:30	2	事務局でんきりん	9	多言語絵本とお話の発表会 3)~④	絵本や言葉遊びなどの学びを発表し合った(創作多文化漫談・多言語の歌などあり)	芳賀洋子	金子多実枝
14	平成30年2月21日(水) 10:30~12:30	2	越谷女性センター	4	越谷ははればれ 1)~⑤	越谷の女性センターにて、折り紙や絵本の紹介などをして、訪問者と交流	井上くみ子	リリー・チョン

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 29年5月25日】

新規の参加者、日本語初級の参加者がスムーズに活動に入れるよう、配慮した学習。

1)2つのグループに分かれて、それぞれのニーズや興味を把握する。

2)学習者の文化や背景を軸に、発話が多くなるように工夫。指導者側より、彼らのほうがよく知っていることを取り上げたため、少ない言葉で一生懸命、こちらに教えようとする姿が力強い。

・スリランカ出身者のグループ…シンハラ文字や、ウェッタシンハの絵本を題材に。
・中国出身者のグループ…日本の漢字と中国の漢字のちがいや、意味の違いなど。

3)和やかに話ができるようになったところで、みんなで自己紹介



○取組事例②

【第12回 h29年11月25日】

＜ボランティア体験＞さいたま市見沼大用水沿いの桜の木の保全活動。NPO法人エコエコ(自然保護活動)と連携。

1)桜の木に絡みついた葛のつるを取り除く作業…午前の部

①エコエコの方から、桜の木に絡まった葛について、また、葛をとらないと桜の木が枯れることもあること、作業の仕方などの説明を受ける。
②みんなで力を合わせて太いウズのつるをひっぱってとる。桜の枝の高いところまで絡みついたつるがとれると歓声上がる。
③つるがとれて枝はすっきり。枝の間から空が見えるようになった。

2)とったつるを使ってリース作り…午後の部

①木の実など、自然のものを飾り付ける。ものづくりが得意な外国出身者が教える役。
②思い思いにできた作品を手に竹林の中で記念写真。
③参加者の国の言葉(多言語)であいさつ。



(2) 目標の達成状況・成果

・図書館でのおはなし会に出ること、自分の国の文化(料理、店頭刺繍など)を地域の日本人に伝えることなどを目標にして学習を進めることにより、習得した日本語を使って地域の中で発信する機会も増え、生活上の大きな自信につながった。また、日本人とのつながりも増え、生活圏が広がったと思う。日本語ができるようになってから～ではなく、今の日本語を活用して一歩出ていく。その結果、日本語の向上もついてくることがわかった。学習者からは「私たちはてんきりん出身です」という言葉も聞かれた。てんきりんの学習で、活躍できるようになったことを指している。また、来日後4年間も、外に出なかったという人は「もっと早くこういうところがあることを知りたかった」と、積極的に外国出身の人に声をかけるようになった。このようなことから、本来持っている力を伸ばすエンパワーメントを目指す学習の仕方の効果が確認できたと思う。
・地域の日本人も参加する多文化カフェなどを通して、お互いが交流する機会ができた。ある日本人からは「今まで、外国人と話すのは難しいと思っていたけど、一緒に何かすれば通じるものだということがわかった」という感想が来ている。

(3) 今後の改善点について

●地域での活躍の結果、外国出身の人の役に立ちたい(医療や子育ての分野で)という気持ちを持つ人が増え、また、外国出身者の相談を受ける人も出てきている。今年度、その気持ちを受け止め、学習を進めたが、具体的な成果に結びつかなかった。今後はAED講習会、傾聴など、ボランティアをする上で、大切な基礎知識を学ぶ必要がある。力をつけた外国出身者と協働して、よりよい、日本語学習を提供していけるようにしたい。
●地域の多文化共生の街を実現するために、さらに地域と密着した企画をつくっていききたい。

＜取組4＞										
取組4	取組の名称		体制整備に向けた連携 ～親子を取り巻く機関との連携&コーディネーターとの連携～							
	取組の目標		外国に繋がる子どもたちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育が受けられるようになるためには、子どもたちや保護者が日本語を学ぶだけでは不十分であり、支援の体制整備が必要である。今まで築いてきた各機関との話し合い等をリードし、連携を積極的に進めていく。独立した取組として進め、地域での体制を整備する。あわせて、地域日本語教育コーディネーターを核とした、相談と情報提供の体制を作り、教育における情報格差の解消にあたる。							
	取組の内容		日常生活における日本語ができる保護者でも、学校の情報やシステムが理解できていない事例に出会う。これは、保護者に「内容が伝わっていない」ために起きることで、日本人側が気づいていないことが多く、このことがしばしば教育現場や日本人保護者の間で問題になり、ひいては外国につながる子どもが受ける教育の質にも影響してくる。これは、外国人保護者が日本語を学ぶだけでは解決しない。そこで七里地区の小学校、保育園、さいたま市教育委員会など子どもを取り巻く現場の人たちが一堂に会し、地域の協議会を開催することで、外国出身親子の問題を共有し、環境改善のために協働する。 (1)協議会の開催 (2)保育園・学校主催事業に参加(就学時健診、出張読み聞かせ会&懇談会、随時相談受付など) (3)地域と学校の連携事業SSN(スクールサポートネットワーク)に参加。その延長として、外国出身の保護者の学校行事・PTA事業への参加を促す (4)埼玉県の地域日本語教育コーディネーターの会「まめの木」(仮称)(H28の取組で準備開始)を始動させる。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		(1)協議会を行うことで、各学校や保育園での課題に対する改善案の提案。各園、小学校内だけの改善にとどまらず、地域一丸となって外国につながる親子をサポートできる環境づくりを目指す。 (2)就学時健診における外国人保護者への配慮と学校内ツアーの開催につなげる。 (3)地域と学校との連携の中に日本語支援団体として参加し、外国人も日本人も住みやすい地域を作る。 (4)地域日本語教育コーディネーターが中心となって、子どもの教育・子育てに関して相談する場、情報を得られる場を作る。							
	取組による日本語能力の向上		直接的な日本語習得ではないが、周りの理解を深めることにより、本当に役に立つ日本語教育の体制作りを目指す。結果的に日本語の習得がしやすい環境が生まれる。							
	参加対象者		(1)～(3)七里地区の保育園、小学校、地域の関係者、教育委員会、公民館など (4)埼玉県で子ども支援をしていて、文化庁地域日本語教育コーディネーターを受講した者を中心に				参加者数 (内 外国人数)	139人 (0人)		
	広報及び募集方法		個別にメール、訪問等で相談							
	開催時間数		総時間 19 時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		さいたま市教育委員会、さいたま市立東宮下小学校、さいたま市七里小学校、七里保育園、七里東保育園、七里公民館、埼玉県教育局等							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		0	0	0	0	0	0	0	0	
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成29年6月21日 15:00～17:00	2	七里公民館	10	多文化の子どもたちを支える地域の協議会①	七里地区の保育園、小学校、公民館、地域の日本語教室が集まり、現状を報告し合い、課題解決を図る。		コーディネート 高柳なな枝	井上くみ子 芳賀洋子	
2	平成30年1月12日 15:00～17:00	2	七里公民館	6	多文化の子どもたちを支える地域の協議会②	七里地区の保育園、小学校、公民館、地域の日本語教室が集まり、現状を報告し合い、課題解決を図る。		コーディネート 高柳なな枝	井上くみ子 芳賀洋子	
3	平成29年10月31日 12:00～14:00	2	東宮下小学校	30	就学時健診	外国出身保護者を含めた新一年生保護者のサポート		高柳なな枝	井上くみ子 五十洲恵	
4	平成30年2月9日 13:30～15:00	1.5	東宮下小学校	30	入学説明会	子育て講座		講師 高柳なな枝	井上くみ子 芳賀洋子 発表者:アントウ・小林マリ フェ	
6	平成30年1月11日 9:30～11:00	1.5	東宮下小学校	20	SSN(スクールサポートネットワーク)会議	東宮下小学校のSSN全体会議		会議出席 芳賀洋子		
7	平成29年6月3日 17:30～19:00	1.5	コーププラザ浦和	4	地域日本語教育コーディネーターの会①	今年度の方針について話し合い		コーディネート 高柳なな枝	会議出席 井上くみ子 芳賀洋子	
9	平成29年11月11日 11:00～12:30	1.5	サイゼリヤ	5	地域日本語教育コーディネーターの会②	教育長との面談を前に、要望を整理。当日の意見交換		コーディネート 高柳なな枝	会議出席 井上くみ子 芳賀洋子	
10	平成29年11月24日(金) 15:30～17:00	1.5	教育委員会	7	地域日本語教育コーディネーターの会③	教育長との面談・意見交換		コーディネート 芳賀洋子	会議出席 高柳なな枝 井上くみ子	
11	平成29年12月20日(金) 14:30～16:00	1.5	教育委員会	4	地域日本語教育コーディネーターの会④	教育長との面談を踏まえ、今後の方針について話し合い		コーディネート 高柳なな枝	会議出席 芳賀洋子 井上くみ子	
12	平成29年12月2日 10:00～12:00	2	仲本公民館	15	地域日本語教育コーディネーターの会⑤	外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会		高柳なな枝	井上くみ子 芳賀洋子	

13	平成30年2月3日 10:00～12:00	2	仲本公民館	15	地域日本語教育コーディネーターの会⑥	外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会	高柳なな枝	井上くみ子 芳賀洋子
----	--------------------------	---	-------	----	--------------------	-----------------------	-------	---------------

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 H30年2月9日】
入学説明会 子育て講座

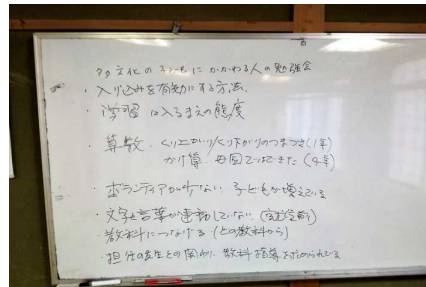
1. 校長挨拶
2. 地球っ子クラブ2000の紹介、今日の趣旨説明
3. グループ分け、自己紹介アクティビティ
4. 外国出身の先輩ママの話
(1)フィリピンとベトナムのクイズ
(2)日本で子育てをして
5. まとめ



○取組事例②

【第9回 H29年12月2日】
外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会

1. 自己紹介、困っていること
2. 課題についてグループで話し合う
(1)学習に入る前段階。落ち着きがない、反発するなどの子どもどう対処する？
(2)算数の指導
(3)教科につなげる学習は、どの教科から？
3. 発表、意見交換
4. 今後のことについて



(2) 目標の達成状況・成果

会議や研修会の様子や聞き取りから、

- 地域の保育園、小学校との連携はうまく進んだといえる。地域の協議会を行うことで、多文化の子どもに関わる教育について相談したり、誤解を正したりする機会ができた。また同じ地域で活動している私たちの団体を知ってもらい機会にもなった。
- 取組5の講演会からもっと勉強したいという声があがり、地域日本語教育コーディネーターの会が中心となって「外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会」を2回実施できたのは成果である。参加者はさいたま市や戸田市の日本語指導員のほか、地域ボランティア、行政関係者などで、具体的な話ができ、大変活気のある勉強会ができています。

(3) 今後の改善点について

- 現在の地域の協議会では、保育園、小学校、公民館の方々に参加していただいているが、来年度はその地域の中学校にも参加してもらえればと考えている。長期的に子どもたちをサポートする体制づくりをし、地区の研修会にもつながればよい。
- 地域と学校のパイプをいかし、今後、保護者と学校の橋渡しをしたい。協議会に外国出身保護者に入ってもらいなど、生の声を聴いてもらう機会をつくってもいいかもしれない。
- いろいろなつながりから相談を受ける機会が増加。いくつかの事例はつながり、つなげていくことができたが、相談の後、連絡が途絶えてしまうこともある。「外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会」の継続的な開催や学校等訪問研修、個別の相談に応じられる体制づくりとしてコーディネーターの会を設立したい。
- 日本語指導が終わった後の子どもに関わる相談が多い。また、小学校から中学校に移る段階(保育園から小学校も)で、問題が表面化することが多い。七里地区での協議会の成果を踏まえ、他地域でも同様の取組がほしい。

＜取組5＞										
取組5	取組の名称		人材育成 「多文化の子どもの力を伸ばすために～日本語、文化的配慮、保護者との関わりを考える～」							
	取組の目標		外国に繋がる子どもたちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育を受けられるようになるためには、子どもたちや保護者が日本語を学ぶだけでは不十分で、支援の体制整備が必要である。特にその教育に関わる人材育成は急務である。日本語加配教員やさいたま市日本語指導員、日本語ボランティアなどへのレベルアップが求められる。また子どもたちや保護者に関わる教職員には、学校での教育的配慮や保護者への配慮、学級経営などの力も求められている。子どもが日本語を学んでいき、本来持っている力が発揮できるような教育的環境、人材育成に力を入れ、今後、各学校や教育委員会へ人材育成事業を引き渡せるよう努めていきたい。併せて、学校や教育委員会には、学校教育における日本語教育コーディネーターの必要性を認識してもらい、体制整備の中核に据えてもらうようにしたい。							
	取組の内容		(1)講演会 ①波多野ファミリースクール大蔵守久氏：日本語初期指導や教科指導について ②東京女子大学石井恵理子氏：子どもの言葉の発達や活動型日本語学習について ③東洋大学門美由紀氏：子どもや親へのエンパワメント、学校内での保護者への対応、他機関との連携について ④多文化子育ての会Coconico井上くみ子：学校現場における「やさしい日本語」について (2)教師力パワーアップ講座 「外国につながる児童生徒・保護者のかかわりと学級経営」と題し、日本語教育だけに特化せず、幅広く教職員向けの講座とする。 ※さいたま市教職員向け講座としては、この他に、さいたま市教育研究所による「夏休みの教師希望研修」の講師も担当している。 (3)学校訪問研修 さいたま市内でも外国につながる児童が多い小学校を訪問し、日本語課外教員または日本語指導員による授業を見学した上で、検討、アドバイス等の勉強会を行う。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		日本語教育環境の改善、学校教職員の意識の改革。また、学校教育における日本語教育コーディネーターの設置を促す。							
	取組による日本語能力の向上		日本語学習者に対する直接的な取組ではないが、子どもたちへの日本語教育環境改善、保護者への対応の変化により、外国につながる子どもへの日本語習得の向上や保護者の学校における主体的な活躍が期待できる。							
	参加対象者		(1)日本語加配教員、日本語指導員、日本語ボランティア (2)さいたま市教職員 (3)東宮下小学校 教員または日本語指導員				参加者数 (内 外国人数)	248人 (4人)		
	広報及び募集方法		さいたま市教育委員会による広報、さいたま市教育研究所による広報、チラシ配布、ホームページの活用							
	開催時間数		総時間 31時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		さいたま市教育委員会、さいたま市教育研究所、さいたま市東宮下小学校など							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			2	1	0	3	0	0	0	0
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成29年6月3日 13:00～17:00	4	コーププラザ浦和	47	講演会①	日本語初期指導の工夫と教科学習につながる指導について①		大蔵守久氏	芳賀洋子	
2	平成29年11月11日 13:00～17:00	4	武蔵浦和コミュニティセンター	32	講演会②	日本語初期指導の工夫と教科学習につながる指導について②		大蔵守久氏	芳賀洋子	
3	平成29年7月1日 13:00～17:00	4	浦和コミュニティセンター	32	講演会③	子どもの言葉の発達と活動型日本語学習について① ～子供のことばを育む活動から		石井恵理子氏	高柳なな枝	
4	平成29年7月29日 13:00～17:00	4	北浦和カルタスホール	27	講演会④	子どもの言葉の発達と活動型日本語学習について② ～子どものことばの力を捉える		石井恵理子氏	高柳なな枝	
5	平成29年9月16日 13:30～16:30	3	浦和コミュニティセンター	25	講演会⑤	子どもや親へのエンパワメント、学校内での保護者への対応、他機関との連携について		門美由紀氏	芳賀洋子 発表者 森ボーラ 洪 知恵	
6	平成29年10月21日 13:30～16:30	3	浦和コミュニティセンター	30	講演会⑥	学校現場における「やさしい日本語」について		井上くみ子氏	高柳なな枝	
7	平成29年5月19日 18:50～20:20	1.5	さいたま市教育研究所	7	教師力パワーアップ講座	各学校の様子を報告し合い、課題に対する改善策を考える		講師 高柳なな枝	芳賀洋子	
8	平成29年11月17日 18:50～20:20	1.5	さいたま市教育研究所	8	教師力パワーアップ講座	各学校の様子を報告し合い、課題に対する改善策を考える		講師 高柳なな枝	芳賀洋子	

9	平成30年2月2日 18:50～20:20	1.5	さいたま市 教育研究所	5	教師力パワーアップ 講座	各学校の様子を報告し合い、課題に 対する改善策を考える	講師 高柳なな枝	芳賀洋子
10	平成29年7月6日 17:00～18:30	1.5	七里保育園	16	学校等訪問研修	「多文化の子どもたちの特性を活かす ためによりよい対応を学ぶ」日常に直 面している具体的問題について。	講師 芳賀洋子	
11	平成29年9月13日 15:30～17:00	1.5	城南小学校	7	学校等訪問研修	日本語を母語としない児童への具体 的な指導法について、学級との連携	講師 高柳なな枝	井上くみ子 芳賀洋子
12	平成29年12月1日 15:20～16:50	1.5	大谷口中学校	12	学校等訪問研修	「日本語指導終了後の学校の文化 的、言語的配慮」学年会にて2人の生 徒へのよりよい対応について学び合 い	講師 芳賀洋子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 H29年6月3日】

大蔵守久氏 講演会「分かりやすい・飽きさせない 日本語初期指導の工夫と教科学習につながる指導について①」

1. 講師紹介
2. 講演
3. 質疑応答
4. アンケート記入



○取組事例②

【第3回 H29年7月1日】

石井恵理子氏 講演会「子どもの言葉の発達と活動型日本語学習について①～子供のことばを育む活動から」

1. 講師紹介
2. 講演
3. 質疑応答
4. アンケート記入



(2) 目標の達成状況・成果

- 教育委員会に講演会の後援をしてもらい、会場予約やさいたま市内の学校(小・中・特別支援)にチラシを配布してもらえた。その結果、日ごろつながることが難しい日本語指導員が講演会に参加し、つながれた。
- 日本語指導において一見周延的に思えるような、しかしとても大切な内容の会への参加が少ないのが残念。知識や技能だけではなく、態度も重要である。しかし参加者からのアンケートからは、すべての講演会で非常に評価が高かった。取組4にある「外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会」につながり、勉強しなかった人々へのニーズに応えられた。
- 講演会には学校の教職員の参加も期待していたが、参加がほとんど見られず残念だった。しかし「学校訪問研修」はとても効果があり、意義のある研修ができた。学校訪問研修の良さは、それぞれの現場に直結する具体事例をもとに、先生方とやり取りをしながら話ができることである。また、忙しい先生方の負担を軽減することもできることである。

(3) 今後の改善点について

- 講演会には教職員の参加がほとんど見られなかったので、教職員でも参加しやすい日程で講演会を実施するように、教育研究所と連携し、日程を設定する必要がある。
- 「学校訪問研修」に力を入れ進めていきたい。学校訪問研修では、具体的な教え方だけではなく、外国出身の親子に対する課題に対し、「なんとかしてくれ！」という要望から、「一緒に何とかしよう！」という学校側の意識の改革も行っていきたい。日本語指導員派遣時に学校訪問研修の内容を行えると、日本語指導終了後の子どもの対応にもつながられると思う。教育委員会との連携がより重要となってくる。

＜取組6＞										
取組6	取組の名称		～ つながる地域 ひろがる仲間 そして多文化共生の街 ～							
	取組の目標		地域の日本人、外国につながる子どもたちに接するすべての日本人に、①多文化共生について②多様性の持つ豊かさについて、様々な機会を作り理解を深めてもらう。外国出身の仲間たちが、教室活動で身につけた日本語と本来持っているその人らしさで、直接日本人と交流、意見交換をして、多文化共生の街作りの一端を担ってもらう。							
	取組の内容		1)取組1, 2, 3を通して学んだこと、身につけた日本語力とコミュニケーション力を駆使して、当事者として地域に発信。事前の打ち合わせや終了後の反省会などの時間を作って、協働して事業ができるようにする。 ・多言語によるおはなし会(さいたま市内の3図書館、さいたま市内の2保育園) ・チャレンジスクール(さいたま市内の2小学校) ・埼玉県春日部子ども大学 2)多団体との協働による事業(下記2, 3, 7, 10, 14)※発表者は謝金対象外 ・国際理解・国際交流の会(さいたま市内の公民館、デイケア施設パル) これらのおはなし会や文化紹介を通して、外国出身の人が自国のことばと文化を大切にしながら、さいたま市で共に暮らしていることを、日本人側(地域の参加者、図書館や保育園など各施設の職員)に実感してもらう。また、ワークショップや終了後の交流会を積極的に取り入れ、外国出身者と地域の日本人がやさしい日本語を使って話し合える場面を作る。 3)多団体との協働による講座 ・埼玉県社会福祉士会多文化ソーシャルワーク委員会にて、「外国につながる子供たちの教育問題について」							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		外国出身者が、積極的に地域に出ていき、自国の文化や言葉も紹介しながら日本人と交流していくことで、地域の人々と外国出身者の間にある様々な壁(ことばの壁や心の壁)を超えることができる。日本語を母語としない人とのコミュニケーションに役立つやさしい日本語の普及も同時に進めることができる。							
	取組による日本語能力の向上		外国出身者は「発信する」ことにより、自国の文化と日本語を学ぶ必然性と意欲を高め、日本で生きる自信につながった。たとえ、日本語の初級者でも、発信する力が引き出せる。そして、日本語コミュニケーション力の向上がはかれた。また、日本人側も、外国出身の隣人との交流を通して、「やさしい日本語」についての意識するようになった。双方向の学びによって、言葉の壁を超えてコミュニケーションができるようになる。							
	参加対象者		1)ソーシャルワーカー、地域の市民、行政関係、外国出身の市民 2)地域の市民、外国出身の市民、各施設の職員等			参加者数 (内 外国人数)		443人 (27人)		
	広報及び募集方法		チラシ、ホームページ、フェイスブック、ソーシャルワーカー研究会、口コミ							
	開催時間数		総時間 31時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		1)多文化ソーシャルワーク研究会、さいたま市国際観光課、埼玉県国際交流協会、他 2)さいたま市内図書館、学校チャレンジスクール、保育園、デイケア・パル、七里地区自治会、他							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		6	3	1	3	1	1	0	0	
		カンボジア(3人) スリランカ(2人) パラグアイ(1人) ロシア(1人) モンゴル(1人) パキスタン(1人) ペルー(1人) アルゼンチン(1人) 台湾(1人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成29年5月15日 18:30～20:30	2	谷田小学校	20	チャレンジスクール	「世界のお茶を体験しよう」スリランカとパラグアイのお茶との紹介文化紹介		講師 芳賀洋子	発表者 サンジーワ 大奈路アリシア	
2	平成29年6月12日 10:00～12:00	2	桜木公民館	20	国際コミュニケーション講座	地域の人に向けての講座 「外国語で体験する(折り紙・楽器)」		講師 井上くみ子	発表者 イ・ウンミ 山田フォニー	
3	平成29年6月26日 10:00～12:00	2	桜木公民館	20	国際コミュニケーション講座	地域の人に向けての講座 「やさしい日本語を学ぶ・使う」		講師 井上くみ子	発表者 戴しぜん 夏天	
4	平成29年6月15日 18:30～20:30	1	社会福祉士会事務所	20	外国につながる子供たちの現状と課題	子どもたちの置かれている環境改善に向けて、社会福祉士の立場としてなにができるか～また、どんなことに配慮すべきか～		講師 芳賀洋子		
5	平成29年6月24日 10:00～12:00	2	大谷口小学校	18	チャレンジスクール	外国出身者とワークショップ形式で交流。スリランカ(絵本)、ベトナム(学校のこと)、パキスタン(ベンガル語の文字遊び)		指導者 芳賀洋子	発表者 シャスリカ・アン・風岡マリア	
6	平成29年8月24日 10:00～12:00	2	南浦和図書館	62	多言語おはなし会	多言語で絵本を楽しむ 外国の楽器やダンスを楽しむ		指導者 井上くみ子	発表者 アリシア、フォニー、賀	
7	平成29年9月11日 10:00～12:00	2	桜木公民館	20	多言語おはなし会	対象者:乳幼児とその親 いろんな言語で、絵本や手遊びを楽しむ		指導者 井上くみ子	発表者 アリシア、フォニー、賀	
8	平成29年11月3日 10:30～13:30	3	春日部共栄大学	58	埼玉県春日部子ども大学でワークショップ	埼玉県教育局と連携。韓国、広東語、クメール語の文字体験を通して交流。子どもたちは非常に熱心に取り組んだ。		指導者 芳賀洋子	発表者 リリー・ジョン 李銀美 洪チャンヒョン	
9	平成29年11月5日 10:00～14:00	4	さいたまスーパーアリーナ	16	国際フェア	国際フェアに出店		指導者 高柳なな枝	補助者 洪智恵	
10	平成29年11月10日 18:30～20:30	2	日本社会事業大学	50	ワールドケアカフェ	国境を越えて介護の繋がりを作る ～グローバルな介護現場でわたしたちは何を実現するか～		パネラー 井上くみ子		
11	平成29年12月16日 9:30～11:30	2	武蔵浦和図書館	38	多言語おはなし会	多言語で絵本を楽しむ 外国の楽器やダンスを楽しむ		指導者 井上くみ子	発表者 アリシア、フォニー、賀、マリフェ、小林大起	

12	平29年12月22日 14:00～16:00	2	大宮図書館	24	多言語おはなし会	多言語で絵本を楽しむ 各国のお正月について知り合う	指導者 高柳な枝	大奈路アジア 洪知恵 森ボーラ 小林マリフェ 五十洲恵
13	平成30年1月25日 15:00～17:00	2	南浦和図書館	31	多言語おはなし会	多言語で絵本を楽しむ 外国の幼稚園や学校の違いを知る	指導者 井上くみ子	発表者 アントウ ボーラ
14	平成30年1月31日 10:00～12:00	2	桜木公民館	16	「世界のランチ」 料理教室	4か国の料理でランチを楽しむ。 地域の人と交流をし、作って食べる。	指導者 井上くみ子	発表者 アントウ、ボー ラ、アリス、 ウンミ
15	平成30年2月15日 15:15～16:15	1	七里保育園	30	多言語おはなし会	懇談会後、保育園園児と保護者に対し 多言語でおはなし会	講師 芳賀洋子	発表者 賀、ウンミ

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回 h29年 1月 31日】

＜目的＞さいたま市桜木公民館と協力し、料理教室を開催。地域の人たちに参加してもらい、料理と交流を楽しむ。

＜内容＞パラグアイ(炊き込みご飯、マテ茶)、韓国(海鮮チヂミ、とうもろこしのひげ茶)、ベトナム(生春巻き、バナナドーナツ)、カンボジア(パイナップルと鶏のスープ、かぼちゃとタピオカのココナツデザート)、を外国出身者より作り方を教えてもらいながら料理をする。

＜参加者＞地域の人16名、コーディネーター1名、パラグアイ出身者1名、韓国出身者1名、ベトナム出身者1名、カンボジア出身者1名)

＜参加者からの感想＞

- ・普段一緒に食べる事のない4か国の料理を一度に食べることができてよかった。
- ・料理だけでなく、外国の人たちと話をしたり、国の文化や行事の話を聞いたことも貴重な経験だった。
- ・とても楽しかった。またやってほしい。



○取組事例②

【第8回 h29年11月3日】

埼玉県教育局が進めている子ども大学に協力。春日部子ども大学にて多言語によるおはなしと外国の文字体験のワークショップ

＜参加スタッフ＞コーディネーター1名、韓国出身者2名、香港出身者1名、カンボジア出身者1名

＜子ども大学参加者＞小学校4年生～6年生。1グループ20人。①ぐるーう45分ずつ3回対応。

＜内容＞「おんなじおんなじってうれしいね！ちょっと違うって楽しいね！」をテーマにコミュニケーションを楽しもう！

- ①自己紹介と多言語挨拶
- ②多言語絵本の読み聞かせと、多言語手遊び(韓国語、クメール語、広東語)
- ③絵本「おんなじおんなじ でも ちょっとちがう」を読んで、テーマ確認(読み手は日本人と韓国人)
- ④各国語で文字遊び(名刺作りなど)
- ⑤感想…知らない言葉で、外国の人とお話ができいい体験になった。中には初めて習った文字で、感想を書いた子供もいて主催者も感動。



(2) 目標の達成状況・成果

連携、協力団体も増え、外国出身者が活躍する舞台も増えた。「日本語、まだまだです」と言っていた外国出身者も、地域や学校で、日本人の前で発表することにより、日本語にも、自分自身にも自信を持つことができた。また、地域の日本人も、外国出身者の体験談を聞いたり、いろんな国の人が同じ地域の住民として自国の文化や言葉を大切にしながら頑張っている姿に触れたりして、お互いに交流することになれる機会になった。外国出身者からは、「国にいたらこんな体験はできなかった。日本に来て新しい自分になった」「もっと早く参加していればよかった」という声が聞かれ、日本人からは「たくさんの国の人がいることを知らなかった」「話を聞いて感動した」「いろんな国の人に会えて楽しい」という感想が聞かれた。

外国出身者が活躍する様々な機会を作ったことにより、①多文化共生について②多様性の持つ豊かさについて、日本人も、外国出身者も学び合う双方向の成果が得られたと思う。

(3) 今後の改善点について

・今までの取り組みを通して、日本語初級の人でも、地域社会で活躍することができることがわかった。多言語によるおはなし会やワークショップは、楽しく異文化体験ができる企画で、いろいろなところから依頼が来るようになった。多文化共生の街作りに向けて、大いに喜ばしいことであるが、回数が増えるにつれて負担感も出てきた。取組6の中で謝金対象になっていない部分は、協力団体から交通費+αが出ているところである。今後も継続してこのような取組を続けていくためには、経費を負担してくれる協力団体を増やしていく必要がある。

・地域の人と、交流するだけでなく、協働する企画を立て実行していきたい。

・多文化共生の街作りの一環として、発信取組の際などで「在住外国人とはやさしい日本語でコミュニケーションを！」という意識をもっと広めていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- (1) 現実的な場面や状況の中で、親子が体験を通して日本語を学び、日本語で情報の受信や意見の発信ができること。
- (2) 子どもの教育や子育てをする保護者が、早い段階で社会や様々な機関と繋がれること。
- (3) 外国につながる親子をとりまく日本人側にも多文化共生社会の一員たる気づきがあるような、双方向の学びの場をつくること。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- 取組1, 2, 3の教室内の参与観察や取組6の発信における発表の様子から、親子が日本語を学び、本来持っている力を日本での生活で発揮できた。また教室活動でのお出かけや、取組6の発信事業では、日本人側にも学びの場となり、互いを知り合い、やさしい日本語についても考える場となった。
- 昨年度からの継続として、体制整備を目的とした取組4の協議会などで、学校・保育園・地域が一体となって意見交換でき、関係性もより強固なものとなった。来年度に向けても有益な話し合いができた。保育園や学校が外国出身親子にどのように接していけばいいか徐々に理解を深めつつある。
- 人材育成で行った講演会から、勉強会開催の機運が高まり、実際に勉強会が行われ、活発な意見交換や情報交換が行われた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- 子育て・教育を大きな課題として掲げているので教育委員会とは密に連携をとり、事業を行っていくことができた。人材育成に際しては、さいたま市内の全小・中・特別支援学校に講演会のチラシを配布してもらうことができた。そのほか、教育委員会宛てにきた日本語を母語としない児童生徒に関する相談をつなげてもらい学校訪問研修が実現した。件数としては保育園1件、小学校2件ではあるが、学校の先生方は忙しく講演会に参加するのも難しいが、学校訪問研修であれば現実に直面していることについて具体的に話ができるので今後、学校訪問研修を広めていきたい。
- 公民館や図書館、県教育局との連携による事業は日本人住民との交流の場でもあり、日本人・外国人にとっていい学びとなった。
- 埼玉県社会福祉士会との連携は互いに勉強になり、今後社会で多文化の親子を支えていくためにも重要なつながりとなった。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- 取組1, 2, 3についてはHPやfacebookなどのSNSや口コミを中心に周知・広報に努めた。大きなイベントがある時にはチラシを作成し、参加が可能である対象の地域の保育園や小学校、または教育委員会に必要部数を印刷して持っていき、配布してもらった。
- 事業成果の地域への発信に関しては、取組6にあるように図書館や公民館、各機関と連携し、学んだ言葉を使い、学んだ内容を発信できる場を設けた。

(5) 改善点、今後の課題について

- 教育委員会をはじめとして、各機関との連携を深め、今後、行政や各機関に事業をシフトしていけるものに関しては、持続可能な形のものとするように橋渡しをする。また日本語教育の専門性について、また、多文化の子供が置かれている現状について周知を進めたい。
- 人材育成の中で、教職員対象のものを学校研修などの形で広めていく。
- 外国出身者に配布するチラシの作成方法や配布方法の再考。チラシは文字に頼らず、PQコードで動画に飛べ情報が視覚的に得られるように工夫したらより興味を持って参加してくれるのではないかと考えている。
- 多文化共生の街づくりに関し、外国出身者から見ると、超えることが難しいさまざまな壁が存在する。日本人と外国人が、集い、学び合い、一緒に作業をする機会が日常的にある場が必要である。今年度の地域への発信は取組を通し、当事者の話は参加者の心に非常に訴えるものがあることがわかった。次年度は、今までの取組の総まとめとして、日本人と外国人のお茶付き対話型のシンポジウムを企画し、双方向の学びの場としたい。

(6) その他参考資料

取組1夏休み親子イベントチラシ、取組5講演会チラシ、取組6講演会アンケート